|  |
| --- |
| 商業科　「簿記」 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元名　　　　　　　　　　　　　　　　　「簿記の基礎」 |  | 〔指導項目〕　　　　　　　　　　　　　　第１編　簿記の基礎第１章　簿記の基礎第２章　資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表第３章　収益・費用と損益計算書第４章　取引と勘定　　第５章　仕訳と転記第６章　仕訳帳と総勘定元帳第７章　試算表の作成　第８章　精算表第９章　決算　　　　　第10章　会計帳簿 |

１　単元の目標

(1) 簿記の必要性と意義、目的、歴史等について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 簿記の必要性と意義、目的、歴史等について、企業活動の展開と関連付けて見いだす。

(3) 簿記の必要性と意義、目的、歴史等について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 簿記の必要性と意義、目的、歴史等について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 簿記の必要性と意義、目的、歴史等について、企業活動の展開と関連付けて見いだしている。 | 簿記の必要性と意義、目的、歴史等について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

３　指導と評価の計画（２時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第一次（２時間） | １　簿記とは２　簿記の目的３　簿記の種類

|  |
| --- |
| 簿記の目的の学習を通して、簿記の必要性と科目を学ぶ意義について考察する。 |

４　簿記の歴史５　簿記の前提条件　　　　　　　　　　　　　・　各種会計帳簿の事例を発表し合い、自分の発言と他者の発言を区別しながら、簿記の目的と必要性を理解する。・　実際の会計帳簿から、簿記の前提条件について理解する。 | 態知 |  | ・　各種会計帳簿を調べることで、簿記の学習に意欲的に取り組もうとしている。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ 　 ・　実際の会計帳簿より会計単位、会計期間、貨幣単位の前提があることを理解している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ |

|  |
| --- |
| 商業科　「簿記」 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元名　　　　　　　　　　　　　　　　　「資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表」 |  | 〔指導項目〕　　　　　　　　　　　　　　第１編　簿記の基礎第１章　簿記の基礎第２章　資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表第３章　収益・費用と損益計算書第４章　取引と勘定　　第５章　仕訳と転記第６章　仕訳帳と総勘定元帳第７章　試算表の作成　第８章　精算表第９章　決算　　　　　第10章　会計帳簿 |

１　単元の目標

(1) 貸借対照表の原理について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 貸借対照表の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだす。

(3) 貸借対照表の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 貸借対照表の原理について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 貸借対照表の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだしている。 | 貸借対照表の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

３　指導と評価の計画（４時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第一次（２時間） | １　簿記の５要素２　資産とは３　負債とは４　純資産（資本）とは

|  |
| --- |
| 資産・負債・純資産（資本）の意義を実務と関連させて理解する。 |

・　資産・負債の事例を発表し合い、自分の発言と他者の発言を区別しながら、資産・負債の意義を理解する。・　ワークシートにある具体的な開業時の取引例を基に純資産（資本）の意義と純資産（資本）等式を理解する。 | 知思 | ○ | ・　資産・負債・純資産（資本）について理論と実務に関連付けて理解し、分類できる技術を身に付けている。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ 　 ・　資産・負債・純資産（資本）の関係より、純資産（資本）等式を考察している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第二次（２時間） | ５　貸借対照表６　純資産（資本）の増減から当期純損益を計算する方法

|  |
| --- |
| 純資産（資本）の増減により当期純利益が計算されることを考察するとともに、貸借対照表を作成する技術を身に付ける。 |

・　ワークシートにある資料より第１期期末の貸借対照表を作成する。・　第２期期末の貸借対照表と第１期期末貸借対照表の純資産（資本）の差額より当期純損益が算出できることを考察する。 | 知思 |  | ・　資産・負債・純資産（資本）に分類し、正確に貸借対照表を作成する技術を身に付けている。ﾜｰｸｼｰﾄ 　 ・　純資産（資本）の増減額が当期純損益であると考察している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ |

|  |
| --- |
| 商業科　「簿記」 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元名　　　　　　　　　　　　　　　　　「収益・費用と損益計算書」 |  | 〔指導項目〕　　　　　　　　　　　　　　第１編　簿記の基礎第１章　簿記の基礎第２章　資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表第３章　収益・費用と損益計算書第４章　取引と勘定　　第５章　仕訳と転記第６章　仕訳帳と総勘定元帳第７章　試算表の作成　第８章　精算表第９章　決算　　　　　第10章　会計帳簿 |

１　単元の目標

(1) 損益計算書の原理について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 損益計算書の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだす。

(3) 損益計算書の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 損益計算書の原理について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 損益計算書の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだしている。 | 損益計算書の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

３　指導と評価の計画（３時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第一次（１時間） | １　収益とは２　費用とは

|  |
| --- |
| 収益・費用の意義を実務と関連させて理解する。 |

・　収益・費用の事例を発表し合い、自分の発言と他者の発言を区別しながら、収益・費用の意義を理解する。・　収益と費用の意義と当期純利益の計算を理解する。 | 知思 | ○ | ・　収益・費用について理論と実務に関連付けて理解し、分類できる技術を身に付けている。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ 　 ・　収益の発生は純資産（資本）を増加させ、費用の発生は純資産（資本）を減少させることを考察している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第二次（２時間） | ３　収益と費用の差額から当期純損益を計算する方法４　損益計算書

|  |
| --- |
| 収益と費用の差額により当期純利益が計算されることを考察するとともに、損益計算書を作成する技術を身に付ける。 |

・　ワークシートにある資料より第１期の損益計算書を作成する。・　第２期の損益計算書の当期純損益と、第２期期末の貸借対照表と第１期期末貸借対照表の純資産（資本）の差額より算出された当期純損益が一致することを考察する。 | 知思 |  | ・　収益と費用の差額が当期純損益であると考察している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ・　収益・費用に分類し、正確に損益計算書を作成する技術を身に付けている。ﾜｰｸｼｰﾄ 　  |

|  |
| --- |
| 商業科　「簿記」 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元名　　　　　　　　　　　　　　　　　「取引と勘定」 |  | 〔指導項目〕　　　　　　　　　　　　　　第１編　簿記の基礎第１章　簿記の基礎第２章　資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表第３章　収益・費用と損益計算書第４章　取引と勘定　　第５章　仕訳と転記第６章　仕訳帳と総勘定元帳第７章　試算表の作成　第８章　精算表第９章　決算　　　　　第10章　会計帳簿 |

１　単元の目標

(1) 取引と勘定の原理について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 取引と勘定の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだす。

(3) 取引と勘定の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 取引と勘定の原理について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 取引と勘定の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだしている。 | 取引と勘定の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

３　指導と評価の計画（３時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第一次（１時間） | １　簿記上の取引２　勘定３　勘定記入の法則

|  |
| --- |
| 簿記上の取引を理解し、勘定の意義と勘定記入に関する技術を身に付ける。 |

・　簿記上の取引の事例を発表し合い、自分の発言と他者の発言を区別しながら、取引の意義を理解する。・　ワークシートにある具体的な５要素の勘定を基に勘定の意義と勘定記入に関する技術を身に付ける。 | 思態　知 | ○ | ・　簿記上の取引を理解し、取引の具体例を他者に意欲的に説明しようとしている。観察 　 ・　勘定の意義を理解し、勘定の記入に関する技術を身に付けている。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第二次（２時間） | ４　取引の２面性５　貸借平均の原理

|  |
| --- |
| 取引は借方・貸方の８要素の結びつきにより整理することができることを理解する。 |

・　ワークシートにある資料より取引を借方要素と貸方要素に分け、勘定口座に記入する。・　上記勘定口座記入後、勘定口座の借方と貸方の総合計が一致することを理解する。 | 知思 | ○ | ・　取引を、8要素の結びつきにより整理する技術を身に付けている。ﾜｰｸｼｰﾄ 　 ・　勘定口座の借方と貸方の総合計が一致することを考察している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ |

|  |
| --- |
| 商業科　「簿記」 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元名　　　　　　　　　　　　　　　　　「仕訳と転記」 |  | 〔指導項目〕　　　　　　　　　　　　　　第１編　簿記の基礎第１章　簿記の基礎第２章　資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表第３章　収益・費用と損益計算書第４章　取引と勘定　　第５章　仕訳と転記第６章　仕訳帳と総勘定元帳第７章　試算表の作成　第８章　精算表第９章　決算　　　　　第10章　会計帳簿 |

１　単元の目標

(1) 仕訳と転記の原理について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 仕訳と転記の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだす。

(3) 仕訳と転記の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 仕訳と転記の原理について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 仕訳と転記の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだしている。 | 仕訳と転記の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

３　指導と評価の計画（４時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第一次（４時間） | １　仕訳２　転記

|  |
| --- |
| 簿記上の取引を仕訳し、勘定に転記する技術を身に付ける。 |

・　仕訳帳の意味と形式を学習し、記入方法を身に付ける。・　総勘定元帳の意味と形式を学習し、仕訳帳から総勘定元帳への転記方法を身に付ける。 | 知 | ○ | ・　仕訳・転記を正確に行う技術を身に付けている。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ 　  |

|  |
| --- |
| 商業科　「簿記」 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元名　　　　　　　　　　　　　　　　　「仕訳帳と総勘定元帳」 |  | 〔指導項目〕　　　　　　　　　　　　　　第１編　簿記の基礎第１章　簿記の基礎第２章　資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表第３章　収益・費用と損益計算書第４章　取引と勘定　　第５章　仕訳と転記第６章　仕訳帳と総勘定元帳第７章　試算表の作成　第８章　精算表第９章　決算　　　　　第10章　会計帳簿 |

１　単元の目標

(1) 仕訳帳と総勘定元帳の原理について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 仕訳帳と総勘定元帳の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだす。

(3) 仕訳帳と総勘定元帳の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 仕訳帳と総勘定元帳の原理について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 仕訳帳と総勘定元帳の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだしている。 | 仕訳帳と総勘定元帳の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

３　指導と評価の計画（２時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第一次（２時間） | １　帳簿への記帳２　仕訳帳への記入３　総勘定元帳への転記４　残高式の総勘定元帳の場合

|  |
| --- |
| 主要簿（仕訳帳・総勘定元帳）への記入の学習を通して、主要簿の原理について理解し、記入する技術を身に付ける。 |

・　主要簿の意味と形式を理解し、ワークシートにある具体的な取引例を基に仕訳帳への記入と総勘定元帳へ転記をする。 | 知 | ○ | ・　主要簿に正確に記入できる技術を身に付けている。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ 　  |

|  |
| --- |
| 商業科　「簿記」 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元名　　　　　　　　　　　　　　　　　「試算表の作成」 |  | 〔指導項目〕　　　　　　　　　　　　　　第１編　簿記の基礎第１章　簿記の基礎第２章　資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表第３章　収益・費用と損益計算書第４章　取引と勘定　　第５章　仕訳と転記第６章　仕訳帳と総勘定元帳第７章　試算表の作成　第８章　精算表第９章　決算　　　　　第10章　会計帳簿 |

１　単元の目標

(1) 試算表の原理について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 試算表の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだす。

(3) 試算表の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 試算表の原理について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 試算表の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだしている。 | 試算表の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

３　指導と評価の計画（２時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第一次（２時間） | １　試算表とは２　試算表の種類と作り方３　転記の正確性の検証

|  |
| --- |
| 試算表の作成をとおして、試算表の役割と実務における課題を考察するとともに、試算表を作成する技術を身に付ける。 |

・　ワークシートにある試算表の誤りを指摘し、転記の正確性を検証し、実務における課題を科学的な根拠に基づいて整理する。・　ワークシートにある具体的な取引を基に試算表を作成する。 | 知思 | ○ | ・　試算表の意味を理解し、試算表を正確に作成できる技術を身に付けている。ﾜｰｸｼｰﾄ・定期考査 　 ・　試算表の作成の妥当性と実務における課題を見いだし、その課題に対応している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ |

|  |
| --- |
| 商業科　「簿記」 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元名　　　　　　　　　　　　　　　　　「精算表」 |  | 〔指導項目〕　　　　　　　　　　　　　　第１編　簿記の基礎第１章　簿記の基礎第２章　資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表第３章　収益・費用と損益計算書第４章　取引と勘定　　第５章　仕訳と転記第６章　仕訳帳と総勘定元帳第７章　試算表の作成　第８章　精算表第９章　決算　　　　　第10章　会計帳簿 |

１　単元の目標

(1) 精算表の原理について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 精算表の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだす。

(3) 精算表の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 精算表の原理について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 精算表の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだしている。 | 精算表の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

３　指導と評価の計画（２時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第一次（２時間） | １　精算表２　６桁精算表の記入方法

|  |
| --- |
| 精算表の学習を通して、精算表の役割と実務における課題を考察するとともに、作成する技術を身に付ける。 |

・　精算表の意味を理解し、ワークシートにある具体的な取引例を基に精算表の作成をする。 | 知 | ○ | ・　精算表を正確に作成できる技術を身に付けている。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ 　  |

|  |
| --- |
| 商業科　「簿記」 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元名　　　　　　　　　　　　　　　　　「決算」 |  | 〔指導項目〕　　　　　　　　　　　　　　第１編　簿記の基礎第１章　簿記の基礎第２章　資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表第３章　収益・費用と損益計算書第４章　取引と勘定　　第５章　仕訳と転記第６章　仕訳帳と総勘定元帳第７章　試算表の作成　第８章　精算表第９章　決算　　　　　第10章　会計帳簿 |

１　単元の目標

(1) 決算について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 決算の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。

(3) 決算について自ら学び、適正な決算の手続きと財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 決算について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 決算の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 | 決算について自ら学び、適正な決算の手続きと財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

３　指導と評価の計画（５時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第一次（５時間） | １　決算とは２　決算の手続き３　決算の本手続き－仕訳帳の締め切り４　決算の本手続き－総勘定元帳の締め切り５　決算の本手続き－繰越試算表の作成６　決算の本手続き－仕訳帳の開始記入７　決算の報告

|  |
| --- |
| 決算の学習を通して、決算の役割を考察するとともに、決算手続きを身に付ける。 |

・　決算の流れを発表し合い、自分の発言と他者の発言を区別しながら、決算の意義を理解する。・　ワークシートにある具体的な取引例を基に決算の手続きを理解する。 | 知態 | ○ | ・　決算について理論と実務に関連付けて理解し、決算手続きができる技術を身に付いている。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ 　 ・　決算の課題を見いだし、その課題に対応している観察・ﾜｰｸｼｰﾄ |

|  |
| --- |
| 商業科　「簿記」 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元名　　　　　　　　　　　　　　　　　「会計帳簿」 |  | 〔指導項目〕　　　　　　　　　　　　　　第１編　簿記の基礎第１章　簿記の基礎第２章　資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表第３章　収益・費用と損益計算書第４章　取引と勘定　　第５章　仕訳と転記第６章　仕訳帳と総勘定元帳第７章　試算表の作成　第８章　精算表第９章　決算　　　　　第10章　会計帳簿 |

１　単元の目標

(1) 会計帳簿の原理について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 会計帳簿の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだす。

(3) 会計帳簿の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 会計帳簿の原理について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 会計帳簿の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだしている。 | 会計帳簿の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

３　指導と評価の計画（２時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第一次（２時間） | １　主要簿と補助簿２　分課制度と帳簿組織

|  |
| --- |
| 会計帳簿の学習を通して、会計帳簿の役割と実務における課題を考察するとともに、会計帳簿の意味を理解する。 |

・　会計帳簿の事例を発表し合い、自分の発言と他者の発言を区別しながら、会計帳簿の意義を理解する。 | 思態 | ○ | ・　会計帳簿の意義を理解し、実務における課題を見いだす。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ |

|  |
| --- |
| 商業科　「簿記」 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元名　　　　　　　　　　　　　　　　　「現金と預金の取引（その１）」 |  | 〔指導項目〕　　　　　　　　　　　　　　第２編　取引の記帳（その１）第11章　現金と預金の取引（その１）第12章　商品売買の取引第13章　掛け取引　　　　第14章　その他の債権・債務（その１）第15章　固定資産の取引（その１）第16章　販売費及び一般管理費 |

１　単元の目標

(1) 現金預金の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 現金預金の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。

(3) 現金預金の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 現金預金の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 現金預金の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 | 現金預金の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

３　指導と評価の計画（６時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第一次（２時間） | １　現金２　現金出納帳

|  |
| --- |
| 現金に関する学習をとおして、現金に関する会計処理を理解するとともに、現金に関する実務における課題を考察する。 |

・　具体的な現金の取引を通して、現金の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。 | 知思態 | ○○ | ・　現金の分類・仕訳、現金出納帳への記帳等、現金に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。ﾜｰｸｼｰﾄ 定期考査・　現金の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、その課題に対応している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ定期考査 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第二次（２時間） | ３　当座預金４　当座預金出納帳

|  |
| --- |
| 当座預金に関する学習をとおして、一連の当座預金に関する会計処理を理解するとともに、当座預金に関する実務における課題を考察する。 |

・　ワークシートにある具体的な当座預金の取引を通して、当座預金の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。 | 知思態 |  | ・　当座預金に関する決済方法を理解し、当座預金に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。ﾜｰｸｼｰﾄ 　 定期考査・　当座預金の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、その課題に対応している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ定期考査 |
| 第三次（２時間） | ５　その他の預金６　小口現金７　小口現金出納帳

|  |
| --- |
| 普通預金、定期預金、小口現金に関する学習をとおして、一連の預金に関する会計処理を理解するとともに、預金に関する実務における課題を考察する。 |

・　ワークシートにある具体的な預金の取引を通して、預金の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。 |  |  | ・　その他の預金に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。ﾜｰｸｼｰﾄ 　 定期考査・　小口現金の仕組みと記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、その課題に対応している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ定期考査 |

|  |
| --- |
| 商業科　「簿記」 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元名　　　　　　　　　　　　　　　　　「商品売買の取引」 |  | 〔指導項目〕　　　　　　　　　　　　　　第２編　取引の記帳（その１）第11章　現金と預金の取引（その１）第12章　商品売買の取引第13章　掛け取引　　　　第14章　その他の債権・債務（その１）第15章　固定資産の取引（その１）第16章　販売費及び一般管理費 |

１　単元の目標

(1) 商品売買の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 商品売買の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。

(3) 商品売買の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 商品売買の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 商品売買の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 | 商品売買の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

３　指導と評価の計画（５時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第一次（５時間） | １　３分法２　仕入帳３　売上帳４　商品有高帳

|  |
| --- |
| 商品売買に関する学習をとおして、一連の商品売買に関する会計処理を理解するとともに、商品売買に関する実務における課題を考察する。 |

・　ワークシートにある具体的な商品売買の取引を通して、商品売買の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。 | 知思態 | ○○ | ・　商品売買の仕訳、仕入帳・売上帳・商品有高帳への記帳等、商品売買に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。ﾜｰｸｼｰﾄ 　 定期考査・　商品売買の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、その課題に対応している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ定期考査 |

|  |
| --- |
| 商業科　「簿記」 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元名　　　　　　　　　　　　　　　　　「掛け取引」 |  | 〔指導項目〕　　　　　　　　　　　　　　第２編　取引の記帳（その１）第11章　現金と預金の取引（その１）第12章　商品売買の取引第13章　掛け取引　　　　第14章　その他の債権・債務（その１）第15章　固定資産の取引（その１）第16章　販売費及び一般管理費 |

１　単元の目標

(1) 掛け取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 掛け取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。

(3) 掛け取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 掛け取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 掛け取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 | 掛け取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

３　指導と評価の計画（３時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第一次（３時間） | １　掛けによる売買２　売掛金と売掛金元帳３　買掛金と買掛金元帳４　貸し倒れ

|  |
| --- |
| 掛け取引に関する学習をとおして、一連の掛け取引に関する会計処理を理解するとともに、掛け取引や貸し倒れに関する実務における課題を考察する。 |

・　ワークシートにある具体的な掛け取引を通して、掛け取引の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。 | 知思態 | ○○ | ・　掛け取引の記帳等、商品売買や貸し倒れに関する正確な会計処理の技術を身に付けている。ﾜｰｸｼｰﾄ 　 定期考査・　掛け取引や貸し倒れの記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、その課題に対応している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ定期考査 |

|  |
| --- |
| 商業科　「簿記」 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元名　　　　　　　　　　　　　　　　　「その他の債権・債務（その１）」 |  | 〔指導項目〕　　　　　　　　　　　　　　第２編　取引の記帳（その１）第11章　現金と預金の取引（その１）第12章　商品売買の取引第13章　掛け取引　　　　第14章　その他の債権・債務（その１）第15章　固定資産の取引（その１）第16章　販売費及び一般管理費 |

１　単元の目標

(1) 債権・債務の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 債権・債務の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。

(3) 債権・債務の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 債権・債務の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 債権・債務の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 | 債権・債務の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

３　指導と評価の計画（５時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第一次（５時間） | １　貸付金と借入金２　前払金と前受金３　未収入金と未払金４　立替金と預り金５　仮払金と仮受金

|  |
| --- |
| その他の債権・債務に関する学習をとおして、一連の債権・債務に関する会計処理を理解するとともに、債権・債務に関する実務における課題を考察する。 |

・　ワークシートにある具体的な債権・債務の取引を通して、債権・債務の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。 | 知思態 | ○○ | ・　その他の債権・債務の意義を理解し、記帳等、債権・債務に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。ﾜｰｸｼｰﾄ 　 定期考査・　その他の債権・債務の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、その課題に対応している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ定期考査 |

|  |
| --- |
| 商業科　「簿記」 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元名　　　　　　　　　　　　　　　　　「固定資産の取引（その１）」 |  | 〔指導項目〕　　　　　　　　　　　　　　第２編　取引の記帳（その１）第11章　現金と預金の取引（その１）第12章　商品売買の取引第13章　掛け取引　　　　第14章　その他の債権・債務（その１）第15章　固定資産の取引（その１）第16章　販売費及び一般管理費 |

１　単元の目標

(1) 固定資産の購入の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 固定資産の購入の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。

(3) 固定資産の購入の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 固定資産の購入の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 固定資産の購入の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 | 固定資産の購入の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

３　指導と評価の計画（３時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第一次（３時間） | １　固定資産２　固定資産の購入３　固定資産台帳（その１）

|  |
| --- |
| 固定資産の学習をとおして、固定資産の購入に関する会計処理を理解するとともに、固定資産に関する実務における課題を考察する。 |

・　ワークシートにある固定資産の取引を通して、固定資産の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。 | 知思態 | ○○ | ・　固定資産の意義を理解し、記帳法等、固定資産に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。ﾜｰｸｼｰﾄ 　 定期考査・　固定資産の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、その課題に対応している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ定期考査 |

|  |
| --- |
| 商業科　「簿記」 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元名　　　　　　　　　　　　　　　　　「販売費及び一般管理費」 |  | 〔指導項目〕　　　　　　　　　　　　　　第２編　取引の記帳（その１）第11章　現金と預金の取引（その１）第12章　商品売買の取引第13章　掛け取引　　　　第14章　その他の債権・債務（その１）第15章　固定資産の取引（その１）第16章　販売費及び一般管理費 |

１　単元の目標

(1) 販売費及び一般管理費の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 販売費及び一般管理費の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。

(3) 販売費及び一般管理費の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 販売費及び一般管理費の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 販売費及び一般管理費の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 | 販売費及び一般管理費の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

３　指導と評価の計画（２時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第一次（２時間） | １　販売費及び一般管理費とは２　販売費及び一般管理費の記帳方法

|  |
| --- |
| 販売費及び一般管理費の学習をとおして、一連の販売費及び一般管理費に関する会計処理を理解するとともに、販売費及び一般管理費に関する実務における課題を考察する。 |

・　ワークシートにある販売費及び一般管理費の取引を通して、販売費及び一般管理費の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。 | 知思態 | ○○ | ・　販売費及び一般管理費の意義を理解し、記帳法等、販売費及び一般管理費に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。ﾜｰｸｼｰﾄ 　 定期考査・　販売費及び一般管理費の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、その課題に対応している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ定期考査 |

|  |
| --- |
| 商業科　「簿記」 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元名　　　　　　　　　　　　　　　　　「決算整理（その1）」 |  | 〔指導項目〕　　　　　　　　　　　　　　第３編　決算（その１）第17章　決算整理（その１）第18章　８桁精算表第19章　帳簿決算　 |

１　単元の目標

(1) 決算整理について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 決算整理の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。

(3) 決算整理について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 決算整理について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 決算整理の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 | 決算整理について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

３　指導と評価の計画（９時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第一次（３時間） | １　決算整理

|  |
| --- |
| 決算整理の意義を実務と関連させて理解する。 |

・　決算整理の意味と必要性を理解し、期中取引と決算整理取引の違いについて学ぶ。２　売上原価の計算

|  |
| --- |
| 売上原価の計算の学習をとおして、決算整理仕訳の役割と実務における課題を考察するとともに、売上原価の計算と記帳法を理解する。 |

・　ワークシートにある売上原価の決算整理の記帳方法を学ぶ。 | 知思知思 | ○ | ・　決算整理について理論と実務に関連付けて理解し、関連する技術を身に付けている。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ 　 ・　売上原価に関する決算整理の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、その課題に対応している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ・ﾍﾟｰﾊﾟｰﾃｽﾄ（定期考査） |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第二次（６時間） | ３　貸倒引当金の見積もり

|  |
| --- |
| 貸倒引当金の計算の学習をとおして、決算整理仕訳の役割と実務における課題を考察するとともに、貸倒引当金の計算と記帳法を理解する。 |

・　ワークシートにある貸倒引当金の決算整理の記帳方法を学ぶ。４　固定資産の減価償却５　棚卸表

|  |
| --- |
| 減価償却の計算の学習をとおして、決算整理仕訳の役割と実務における課題を考察するとともに、減価償却の計算と記帳法を理解する。棚卸表の意味を実務と関連させて理解する。 |

・　ワークシートにある減価償却の決算整理の記帳方法を学ぶ。 | 知思知思 |  | ・　貸倒引当金に関する決算整理の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、その課題に対応している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ・ﾍﾟｰﾊﾟｰﾃｽﾄ（定期考査）・　減価償却に関する決算整理の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、その課題に対応している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ・ﾍﾟｰﾊﾟｰﾃｽﾄ（定期考査） |

|  |
| --- |
| 商業科　「簿記」 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元名　　　　　　　　　　　　　　　　　「８桁精算表」 |  | 〔指導項目〕　　　　　　　　　　　　　　第３編　決算（その１）第17章　決算整理（その１）第18章　８桁精算表第19章　帳簿決算　 |

１　単元の目標

(1) 精算表の作成について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 精算表の作成の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。

(3) 精算表の作成について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 精算表の作成について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 精算表の作成の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 | 精算表の作成について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

３　指導と評価の計画（３時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第一次（３時間） | １　８桁精算表とは２　８桁精算表の記入方法

|  |
| --- |
| ８桁精算表に関する会計処理を理解するとともに、決算に関する実務における課題を考察する。 |

・　ワークシートにある８桁精算表の作成を通して、決算の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。 | 知思 | ○ | ・　決算整理の意義を理解し、８桁精算表に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。ﾜｰｸｼｰﾄ 　 定期考査 |

|  |
| --- |
| 商業科　「簿記」 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元名　　　　　　　　　　　　　　　　　「帳簿決算」 |  | 〔指導項目〕　　　　　　　　　　　　　　第３編　決算（その１）第17章　決算整理（その１）第18章　８桁精算表第19章　帳簿決算　 |

１　単元の目標

(1) 帳簿決算について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 帳簿決算の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。

(3) 帳簿決算について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 帳簿決算について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 帳簿決算の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 | 帳簿決算について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

３　指導と評価の計画（５時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第一次（３時間） | １　帳簿決算

|  |
| --- |
| 帳簿決算の意義を実務と関連させて理解する。 |

・　帳簿決算の意味と必要性を理解し、仕訳帳の締め切り、総勘定元帳の締め切り、繰越試算表の作成について学ぶ。・　ワークシートにある取引例をもとに帳簿決算の記帳方法を学ぶ。 | 知 | ○ | ・　帳簿決算の手続きについて、正確な技術を身に付けている。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第二次（２時間） | ２　財務諸表の作成

|  |
| --- |
| 財務諸表作成の学習をとおして、帳簿決算から外部報告書である財務諸表の作成の役割と実務における課題を考察するとともに、財務諸表の作成法を理解する。 |

・　ワークシートにある会計帳簿より財務諸表を作成する。 | 知 | ○ | ・　会計帳簿より財務諸表を作成する技術を身に付けている。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ・ﾍﾟｰﾊﾟｰﾃｽﾄ（定期考査） |

|  |
| --- |
| 商業科　「簿記」 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元名　　　　　　　　　　　　　　　　　「伝票式会計と会計ソフトウェア」 |  | 〔指導項目〕　　　　　　　　　　　　　　第４編　伝票と会計ソフトウェア第20章　伝票式会計と会計ソフトウェア |

１　単元の目標

(1) 記帳の効率化について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 記帳の効率化の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。

(3) 記帳の効率化について自ら学び、伝票の利用と会計ソフトウェアの効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 記帳の効率化について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 記帳の効率化の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 | 記帳の効率化について自ら学び、伝票の利用と会計ソフトウェアの効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

３　指導と評価の計画（７時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第一次（３時間） | １　証ひょう２　伝票とは３　３伝票制４　伝票から総勘定元帳への転記

|  |
| --- |
| 伝票式会計の意義を実務と関連させて理解する。 |

・　伝票式会計の意義と必要性を理解し、入金伝票、出金伝票、振替伝票の起票、集計、転記の方法について学ぶ。・　ワークシートにある取引例をもとに伝票式会計の記帳方法を学ぶ。 | 知思 | ○ | ・　伝票式会計の記帳法について、正確な技術を身に付けている。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第二次（４時間） | ５　会計ソフトウェアの活用６　会計ソフトウェアの表示例

|  |
| --- |
| 会計ソフトウェアの学習をとおして、会計ソフトウェアを活用した会計帳簿の作成と実務における課題を考察するとともに、会計ソフトウェアを活用した会計帳簿の作成法を理解する。 |

・　ワークシートにある取引例より会計ソフトウェアを活用した会計帳簿を作成する。・　ワークシートにある取引例を通して、会計ソフトウエアに関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。 | 知思 | ○ | ・　会計ソフトウェアを活用した会計帳簿を作成する技術を身に付けている。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ・ﾍﾟｰﾊﾟｰﾃｽﾄ（定期考査） |

|  |
| --- |
| 商業科　「簿記」 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元名　　　　　　　　　　　　　　　　　「現金と預金の取引（その２）」 |  | 〔指導項目〕　　　　　　　　　　　　　　第５編　取引の記帳（その２）第21章　現金と預金の取引（その２）第22章　その他の債権・債務（その２）第23章　手形第24章　特殊な手形の取引第25章　有価証券　　　　第26章　固定資産の取引（その２）第27章　純資産（資本）の取引と事業主個人の税金第28章　個人企業の税金 |

１　単元の目標

(1) 現金過不足・当座借越の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 現金過不足・当座借越の記帳方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。

(3) 現金過不足・当座借越の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 現金過不足・当座借越の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 現金過不足・当座借越の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 | 現金過不足・当座借越の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

３　指導と評価の計画（３時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第一次（３時間） | １　現金過不足の処理２　当座借越

|  |
| --- |
| 現金過不足、当座借越の学習をとおして、現金預金に関する一連の会計処理を理解するとともに、実務における課題を考察する。 |

・　具体的な現金預金の一連の取引を通じて、現金過不足、当座借越の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。 | 知思態 | 〇 | ・　現金過不足、当座借越の学習に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。ﾜｰｸｼｰﾄ 　 定期考査・　現金過不足、当座借越の処理の妥当性と実務における課題を見いだし、その課題に対応している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ・ﾍﾟｰﾊﾟｰﾃｽﾄ（定期考査） |

|  |
| --- |
| 商業科　「簿記」 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元名　　　　　　　　　　　　　　　　　「その他の債権・債務（その２）」 |  | 〔指導項目〕　　　　　　　　　　　　　　第５編　取引の記帳（その２）第21章　現金と預金の取引（その２）第22章　その他の債権・債務（その２）第23章　手形第24章　特殊な手形の取引第25章　有価証券　　　　第26章　固定資産の取引（その２）第27章　純資産（資本）の取引と事業主個人の税金第28章　個人企業の税金 |

１　単元の目標

(1) クレジット売掛金、電子記録債権・電子記録債務、受取商品券の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) クレジット売掛金、電子記録債権・電子記録債務、受取商品券の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。

(3) クレジット売掛金、電子記録債権・電子記録債務、受取商品券の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| クレジット売掛金、電子記録債権・電子記録債務、受取商品券の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | クレジット売掛金、電子記録債権・電子記録債務、受取商品券の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 | クレジット売掛金、電子記録債権・電子記録債務、受取商品券の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

３　指導と評価の計画（４時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第一次（４時間） | １　クレジット売掛金２　電子記録債権・電子記録債務３　受取商品券

|  |
| --- |
| クレジット売掛金と電子記録債権・電子記録債務、受取商品券に関する学習をとおして、その他債権債務の会計処理を理解するとともに、クレジット売掛金と電子記録債権・電子記録債務、受取商品券に関する実務における課題を考察する。 |

・　ワークシートにある具体的なクレジット売掛金と電子記録債権・電子記録債務、受取商品券の取引を通して、クレジット売掛金と電子記録債権・電子記録債務の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。 | 知思態 | ○○ | ・　クレジット売掛金と電子記録債権・電子記録債務、受取商品券の意義を理解し、記帳等、クレジット売掛金と電子記録債権・電子記録債務、受取商品券に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。ﾜｰｸｼｰﾄ 　 定期考査・　クレジット売掛金と電子記録債権・電子記録債務、受取商品券の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、その課題に対応している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ定期考査 |

|  |
| --- |
| 商業科　「簿記」 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元名　　　　　　　　　　　　　　　　　「手形」 |  | 〔指導項目〕　　　　　　　　　　　　　　第５編　取引の記帳（その２）第21章　現金と預金の取引（その２）第22章　その他の債権・債務（その２）第23章　手形第24章　特殊な手形の取引第25章　有価証券　　　　第26章　固定資産の取引（その２）第27章　純資産（資本）の取引と事業主個人の税金第28章　個人企業の税金 |

１　単元の目標

(1) 手形取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 手形取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。

(3) 手形取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 手形取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 手形取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 | 手形取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

３　指導と評価の計画（５時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第一次（５時間） | １　手形の種類２　約束手形　３　約束手形の処理４　手形の裏書き　５　手形の割り引き６　受取手形記入帳と支払手形記入帳

|  |
| --- |
| 手形に関する学習をとおして、一連の手形に関する会計処理を理解するとともに、手形に関する実務における課題を考察する。 |

・　ワークシートにある具体的な手形の取引を通して、手形の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。 | 知思態 | ○○ | ・　手形の意義を理解し、記帳等、手形に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。ﾜｰｸｼｰﾄ 　 定期考査・　手形の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、その課題に対応している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ定期考査 |

|  |
| --- |
| 商業科　「簿記」 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元名　　　　　　　　　　　　　　　　　「特殊な手形の取引」 |  | 〔指導項目〕　　　　　　　　　　　　　　第５編　取引の記帳（その２）第21章　現金と預金の取引（その２）第22章　その他の債権・債務（その２）第23章　手形第24章　特殊な手形の取引第25章　有価証券　　　　第26章　固定資産の取引（その２）第27章　純資産（資本）の取引と事業主個人の税金第28章　個人企業の税金 |

１　単元の目標

(1) 特殊な手形取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 特殊な手形取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。

(3) 特殊な手形取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 特殊な手形取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 特殊な手形取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 | 特殊な手形取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

３　指導と評価の計画（６時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第一次（６時間） | １　手形の書き換え２　手形の不渡り３　保証債務４　営業外受取手形・営業外支払手形５　手形貸付金と手形借入金

|  |
| --- |
| 特殊な手形に関する学習をとおして、一連の特殊な手形に関する会計処理を理解するとともに、特殊な手形に関する実務における課題を考察する。 |

・　ワークシートにある具体的な特殊な手形の取引を通して、手形の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。 | 知思態 | ○○ | ・　特殊な手形の意義を理解し、記帳等、手形に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。ﾜｰｸｼｰﾄ 　 定期考査・　特殊な手形の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、その課題に対応している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ定期考査 |

|  |
| --- |
| 商業科　「簿記」 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元名　　　　　　　　　　　　　　　　　「有価証券」 |  | 〔指導項目〕　　　　　　　　　　　　　　第５編　取引の記帳（その２）第21章　現金と預金の取引（その２）第22章　その他の債権・債務（その２）第23章　手形第24章　特殊な手形の取引第25章　有価証券　　　　第26章　固定資産の取引（その２）第27章　純資産（資本）の取引と事業主個人の税金第28章　個人企業の税金 |

１　単元の目標

(1) 有価証券の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 有価証券の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対する。

(3) 有価証券の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 有価証券の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 有価証券の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 | 有価証券の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

３　指導と評価の計画（３時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第一次（３時間） | １　有価証券２　有価証券の購入３　有価証券の売却

|  |
| --- |
| 有価証券に関する学習をとおして、一連の有価証券に関する会計処理を理解するとともに、有価証券に関する実務における課題を考察する。 |

・　ワークシートにある具体的な有価証券の取引を通して、有価証券の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。 | 知思態 | ○○ | ・　有価証券の意義を理解し、記帳等、有価証券に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。ﾜｰｸｼｰﾄ 　 定期考査・　有価証券の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、その課題に対応している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ定期考査 |

|  |
| --- |
| 商業科　「簿記」 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元名　　　　　　　　　　　　　　　　　「固定資産の取引（その２）」 |  | 〔指導項目〕　　　　　　　　　　　　　　第５編　取引の記帳（その２）第21章　現金と預金の取引（その２）第22章　その他の債権・債務（その２）第23章　手形第24章　特殊な手形の取引第25章　有価証券　　　　第26章　固定資産の取引（その２）第27章　純資産（資本）の取引と事業主個人の税金第28章　個人企業の税金 |

１　単元の目標

(1) 固定資産売却の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 固定資産売却の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。

(3) 固定資産売却の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 固定資産売却の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 固定資産売却の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 | 固定資産売却の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組む。 |

３　指導と評価の計画（２時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第一次（２時間） | １　固定資産の売却（直接法）２　期中に固定資産を売却したとき３　固定資産台帳（その２）

|  |
| --- |
| 固定資産の学習をとおして、固定資産の売却に関する会計処理を理解するとともに、固定資産に関する実務における課題を考察する。 |

・　ワークシートにある固定資産の取引を通して、固定資産売却の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。 | 知思態 | 〇 | ・　固定資産の意義を理解し、売却時の記帳法等、固定資産に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。ﾜｰｸｼｰﾄ 　 定期考査・　固定資産売却時の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、その課題に対応している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ定期考査 |

|  |
| --- |
| 商業科　「簿記」 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元名　　　　　　　　　　　　　　　　　「純資産（資本）の取引と事業主個人の税金」 |  | 〔指導項目〕　　　　　　　　　　　　　　第５編　取引の記帳（その２）第21章　現金と預金の取引（その２）第22章　その他の債権・債務（その２）第23章　手形第24章　特殊な手形の取引第25章　有価証券　　　　第26章　固定資産の取引（その２）第27章　純資産（資本）の取引と事業主個人の税金第28章　個人企業の税金 |

１　単元の目標

(1) 純資産（資本）の取引と事業主個人の税金の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 純資産（資本）の取引と事業主個人の税金の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。

(3) 純資産（資本）の取引と事業主個人の税金の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 純資産（資本）の取引と事業主個人の税金の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 純資産（資本）の取引と事業主個人の税金の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 | 純資産（資本）の取引と事業主個人の税金の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

３　指導と評価の計画（４時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第一次（４時間） | １　資本の元入れ・追加元入れ２　資本の引き出し３　所得税と住民税

|  |
| --- |
| 資本、個人事業主の税金の学習をとおして、一連の資本、個人事業主の税金に関する会計処理を理解するとともに、資本、個人事業主の税金に関する実務における課題を考察する。 |

・　ワークシートにある資本、個人事業主の税金の取引を通して、資本、個人事業主の税金の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。 | 知思態 | ○○ | ・　資本、個人事業主の税金の意義を理解し、記帳法等、資本、個人事業主の税金に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。ﾜｰｸｼｰﾄ 　 定期考査・　資本、個人事業主の税金の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、その課題に対応している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ定期考査 |

|  |
| --- |
| 商業科　「簿記」 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元名　　　　　　　　　　　　　　　　　「個人企業の税金」 |  | 〔指導項目〕　　　　　　　　　　　　　　第５編　取引の記帳（その２）第21章　現金と預金の取引（その２）第22章　その他の債権・債務（その２）第23章　手形第24章　特殊な手形の取引第25章　有価証券　　　　第26章　固定資産の取引（その２）第27章　純資産（資本）の取引と事業主個人の税金第28章　個人企業の税金 |

１　単元の目標

(1) 個人企業の税金の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 個人企業の税金の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。

(3) 個人企業の税金の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

２　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 個人企業の税金の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 個人企業の税金の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 | 個人企業の税金の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

３　指導と評価の計画（２時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第一次（２時間） | １　事業税２　固定資産税３　印紙税４　消費税

|  |
| --- |
| 個人企業の税金の学習をとおして、一連の個人企業の税金に関する会計処理を理解するとともに、個人企業の税金に関する実務における課題を考察する。 |

・　ワークシートにある個人企業の税金の取引を通して、個人企業の税金の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。 | 知思態 | ○○ | ・　個人企業の税金の意義を理解し、記帳法等、個人企業の税金に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。ﾜｰｸｼｰﾄ 　 定期考査・　個人企業の税金の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、その課題に対応している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ定期考査 |

|  |
| --- |
| 商業科　「簿記」 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元名　　　　　　　　　　　　　　　　　「決算整理（その２）」 |  | 〔指導項目〕　　　　　　　　　　　　　　第６編　決算（その２）第29章　決算整理（その２）第30章　精算表と財務諸表の作成 |

１　単元の目標

(1) 決算について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 決算の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。

(3) 決算について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 決算について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 決算の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 | 決算について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

３　指導と評価の計画（９時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第一次（５時間） | １　費用・収益の繰り延べと見越し

|  |
| --- |
| 費用・収益の繰り延べと見越しの学習をとおして、決算整理仕訳の役割と実務における課題を考察するとともに、費用・収益の繰り延べと見越しに関する計算と記帳法を理解する。 |

・　ワークシートにある費用・収益の繰り延べと見越しの決算整理の記帳方法を学ぶ２　消耗品費の整理

|  |
| --- |
| 消耗品の整理の学習をとおして、決算整理仕訳の役割と実務における課題を考察するとともに、消耗品・消耗品費の計算と記帳法を理解する。 |

・　ワークシートにある消耗品の整理に関する決算整理の記帳方法を学ぶ。３　貯蔵品勘定への振り替え４　当座借越勘定への振り替え

|  |
| --- |
| 貯蔵品、当座借越勘定への振り替えの学習をとおして、決算整理仕訳の役割と実務における課題を考察するとともに、貯蔵品、当座借越勘定に関する計算と記帳法を理解する。 |

・　ワークシートにある貯蔵品、当座借越の整理に関する決算整理の記帳方法を学ぶ。 | 知思知思知思 | ○○〇 | ・　収益・費用の繰り延べと見越しに関する決算整理の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、その課題に対応している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ・ﾍﾟｰﾊﾟｰﾃｽﾄ（定期考査）・　消耗品の整理に関する決算整理の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、その課題に対応している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ・ﾍﾟｰﾊﾟｰﾃｽﾄ（定期考査）・　貯蔵品、当座借越への振り替えの決算整理の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、その課題に対応している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ・ﾍﾟｰﾊﾟｰﾃｽﾄ（定期考査） |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第二次（４時間） | ５　有価証券の評価替え

|  |
| --- |
| 有価証券の評価替えの学習をとおして、決算整理仕訳の役割と実務における課題を考察するとともに、有価証券の評価に関する計算と記帳法を理解する。 |

・　ワークシートにある有価証券の評価替えの決算整理の記帳方法を学ぶ。６　固定資産の減価償却（間接法・定率法）

|  |
| --- |
| 減価償却の計算の学習をとおして、決算整理仕訳の役割と実務における課題を考察するとともに、減価償却の計算と記帳法を理解する。 |

・　ワークシートにある減価償却の決算整理の記帳方法を学ぶ。・　定額法と定率法、直接法と間接法の違いを指摘し、実務における課題を科学的な根拠に基づいて整理する。 | 知思知思 | ○○ | ・　有価証券の評価替えに関する決算整理の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、その課題に対応している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ・ﾍﾟｰﾊﾟｰﾃｽﾄ（定期考査）・　減価償却に関する決算整理の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、その課題に対応している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ・ﾍﾟｰﾊﾟｰﾃｽﾄ（定期考査） |

|  |
| --- |
| 商業科　「簿記」 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元名　　　　　　　　　　　　　　　　　「精算表と財務諸表の作成」 |  | 〔指導項目〕　　　　　　　　　　　　　　第６編　決算（その２）第29章　決算整理（その２）第30章　精算表と財務諸表の作成 |

１　単元の目標

(1) 財務諸表の作成について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 財務諸表の作成の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。

(3) 財務諸表の作成について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 財務諸表の作成について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 財務諸表の作成の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 | 財務諸表の作成について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

３　指導と評価の計画（６時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第一次（６時間） | １　第２９章までの決算整理のまとめ２　損益計算書と貸借対照表

|  |
| --- |
| 決算整理に関する会計処理を理解するとともに、決算に関する実務における課題を考察する。 |

・　ワークシートにある決算整理事項に基づき、決算の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。 | 知思 | ○ | ・　決算整理の意義を理解し、財務諸表作成に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。ﾜｰｸｼｰﾄ 　 定期考査 |

|  |
| --- |
| 商業科　「簿記」 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元名　　　　　　　　　　　　　　　　　「本支店会計－本支店間の取引」 |  | 〔指導項目〕　　　　　　　　　　　　　　第7編　本支店会計第31章　本支店会計－本支店間の取引第32章　本支店会計－合併財務諸表 |

１　単元の目標

(1) 本支店会計について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 本支店会計に関する取引の記録と財務諸表の合併の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。

(3) 本支店会計について自ら学び、適正な本店・支店間取引と支店間取引の記録及び財務諸表の合併に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 本支店会計について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 本支店会計に関する取引の記録と財務諸表の合併の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 | 本支店会計について自ら学び、適正な本店・支店間取引と支店間取引の記録及び財務諸表の合併に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

３　指導と評価の計画（４時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第一次（４時間） | １　本支店会計２　本支店間取引の記帳３　支店間取引の記帳

|  |
| --- |
| 本支店会計（本支店間の取引）に関する学習をとおして、一連の本支店会計（本支店間の取引）に関する会計処理を理解するとともに、本支店会計（本支店間の取引）に関する実務における課題を考察する。 |

・　ワークシートにある具体的な本支店会計（本支店間の取引）の取引を通して、本支店会計（本支店間の取引）の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。 | 知思態 | ○○ | ・　本支店会計（本支店間の取引）の意義を理解し、記帳等、本支店会計に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。ﾜｰｸｼｰﾄ 　 定期考査・　本支店会計（本支店間の取引）の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、その課題に対応している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ定期考査 |

|  |
| --- |
| 商業科　「簿記」 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元名　　　　　　　　　　　　　　　　　「本支店会計－合併財務諸表」 |  | 〔指導項目〕　　　　　　　　　　　　　　第7編　本支店会計第31章　本支店会計－本支店間の取引第32章　本支店会計－合併財務諸表 |

１　単元の目標

(1) 本支店の財務諸表の作成について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 本支店の財務諸表の作成に関する取引の記録と財務諸表の合併の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。

(3) 本支店の財務諸表の作成について自ら学び、適正な本店・支店間取引と支店間取引の記録及び財務諸表の合併に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 本支店の財務諸表の作成について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 本支店の財務諸表の作成に関する取引の記録と財務諸表の合併の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 | 本支店の財務諸表の作成について自ら学び、適正な本店・支店間取引と支店間取引の記録及び財務諸表の合併に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

３　指導と評価の計画（６時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第一次（６時間） | １　本支店合併財務諸表とは２　本支店合併財務諸表の作成手順３　合併後の貸借対照表と損益計算書の作成

|  |
| --- |
| 本支店会計（合併財務諸表）に関する学習をとおして、本支店会計（合併財務諸表）に関する会計処理を理解するとともに、本支店会計（合併財務諸表）に関する実務における課題を考察する。 |

・　ワークシートにある具体的な本支店会計（合併財務諸表）の取引を通して、本支店会計（合併財務諸表）の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。 | 知思態 | ○○ | ・　本支店会計（合併財務諸表）の意義を理解し、本支店会計（合併財務諸表）に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。ﾜｰｸｼｰﾄ 　 定期考査・　本支店会計（合併財務諸表）の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、その課題に対応している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ定期考査 |

|  |
| --- |
| 商業科　「簿記」 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元名　　　　　　　　　　　　　　　　　「株式会社の会計処理」 |  | 〔指導項目〕　　　　　　　　　　　　　　発展編　株式会社の取引第33章　株式会社の会計処理第34章　株式会社の税金 |

１　単元の目標

(1) 株式会社の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 株式会社の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。

(3) 株式会社の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 株式会社の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 株式会社の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 | 株式会社の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

３　指導と評価の計画（６時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第一次（６時間） | １　株式会社とは　　２　株式会社の純資産（資本）３　設立時の株式の発行４　増資時の株式の発行５　当期純利益の繰越利益剰余金勘定への振り替え６　剰余金の配当と処分

|  |
| --- |
| 株式会社の会計処理に関する学習をとおして、株式会社に関する会計処理を理解するとともに、株式会社の会計処理に関する実務における課題を考察する。 |

・　ワークシートにある具体的な株式会社の取引を通して、株式会社の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。 | 知思態 | ○○ | ・　株式会社の意義を理解し、記帳等、株式会社に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。ﾜｰｸｼｰﾄ 　 定期考査・　株式会社の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、その課題に対応している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ定期考査 |

|  |
| --- |
| 商業科　「簿記」 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 単元名　　　　　　　　　　　　　　　　　「株式会社の税金」 |  | 〔指導項目〕　　　　　　　　　　　　　　発展編　株式会社の取引第33章　株式会社の会計処理第34章　株式会社の税金 |

１　単元の目標

(1) 株式会社の税金の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 株式会社の税金の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。

(3) 株式会社の税金の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

２　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 株式会社の税金の取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 | 株式会社の税金の取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 | 株式会社の税金の取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

３　指導と評価の計画（３時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考（評価規準・評価方法） |
| 第一次（３時間） | １　株式会社の税金

|  |
| --- |
| 株式会社の税金に関する学習をとおして、一連の株式会社の税金に関する会計処理を理解するとともに、株式会社の税金に関する実務における課題を考察する。 |

・　ワークシートにある具体的な株式会社の税金の取引を通して、手形の会計処理に関する技術を身に付けるとともに、実務における課題を整理する。 | 知思態 | ○○ | ・　株式会社の税金の意義を理解し、記帳等、株式会社の税金に関する正確な会計処理の技術を身に付けている。ﾜｰｸｼｰﾄ 　 定期考査・　株式会社の税金の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、その課題に対応している。観察・ﾜｰｸｼｰﾄ定期考査 |